

平成 30 年度事業報告

1 財団の概況

(1) 設立趣意書

熊本県が建設する熊本県立劇場は、高まり行く県民の文化的欲求に対応するとともに、地域文化開発の拠点となって、活力ある郷土の実現をめざすこととなるのであるが、その管理運営が極めて重要な課題となる。

現下の厳しい社会情勢にかんがみ、県立劇場の管理運営にあたっては、行政負担を抑制すると同時に行政サービスを低下させることなく、効率的かつ適正な執行体制を確保する必要がある。

このことから、県民の福祉および文化の向上を図るための諸事業を実施し、県立劇場施設の管理委託を受けて、県民生活向上のためのサービスを提供する財団法人を設立のうえ、県立劇場建設の所期の目的を達成するため、民間のエネルギーおよび感覚をもって、より効果的運営を図ろうとするものである。

(財団法人熊本県立劇場設立趣意書より)

(2) 法人の目的および事業

① 目的 (定款第 3 条)

この法人は、活力ある郷土の実現をめざし、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術活動を中心とした芸術文化および地域文化の振興のための事業並びに優れた舞台芸術を広く提供する事業を行い、県民の福祉および文化の向上に寄与することを目的とする。

② 事業 (定款第 4 条)

- ・舞台芸術に関する公演を自主制作、又は、主催し、広く提供する事業
- ・個人および団体への助言並びに人材の育成に関する事業
- ・団体への助成に関する事業
- ・調査、研究、情報収集に関する事業
- ・普及・啓発のための広報に関する事業
- ・公立文化施設の管理および貸与に関する事業
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 沿革

昭和 57 年	6 月 14 日	財団法人熊本県立劇場の設立 (民法第 34 条法人)
昭和 57 年	12 月 4 日	熊本県立劇場落成
昭和 59 年	3 月 5 日	財団法人熊本県立劇場文化事業委員会の発足
昭和 63 年	7 月 1 日	鈴木健二館長就任
昭和 63 年	8 月 20 日	文化振興基金の開設
平成 元年	3 月 30 日	施設整備基金の開設
平成 6 年	3 月 31 日	自主文化事業調整基金の開設
平成 10 年	7 月 1 日	施設使用料金の改定、施設使用許可取扱要領を整備

平成 11 年 3 月 1 日	財団法人熊本県立劇場評議員会の発足（文化事業委員会の廃止）
平成 11 年 4 月 1 日	川本雄三館長就任
平成 13 年 3 月 31 日	旧文化振興基金の運用終了
平成 14 年 4 月 1 日	自主文化事業調整基金を一新し文化振興基金に改め運用開始
平成 17 年 7 月 1 日	熊本県立劇場条例および条例施行規則改正の公布
平成 18 年 4 月 1 日	第 1 期指定管理者業務開始（改正条例の施行） 文化振興基金および施設整備基金を廃止
平成 18 年 6 月 1 日	小堀富夫理事長就任
平成 18 年 6 月 23 日	財団法人熊本県立劇場自主文化事業委員会の発足
平成 18 年 7 月 1 日	葉山完治館長就任
平成 21 年 3 月 31 日	第 1 期指定管理者業務終了
平成 21 年 4 月 1 日	第 2 期指定管理者業務開始
平成 24 年 3 月 31 日	第 2 期指定管理者業務終了
平成 24 年 4 月 1 日	公益財団法人へ移行登記、第 3 期指定管理者運営開始
平成 26 年 4 月 1 日	熊本県立劇場条例一部改正（改正条例の施行） 熊本県立劇場運営方針の施行
平成 27 年 4 月 1 日	松本辰明理事長就任
平成 27 年 6 月 19 日	世良喜久子理事長就任
平成 28 年 1 月 1 日	姜尚中理事長兼館長就任
平成 28 年 4 月 14 日	熊本地震発生により 8 月 24 日まで休館
平成 28 年 12 月 19 日	熊本地震を受けて第 3 期指定管理者期間の 2 年延長
平成 29 年 8 月 28 日	熊本市民会館の指定管理業務の運営に係る包括協定書の締結
平成 30 年 2 月 9 日	熊本市民会館文化企画事業委託業務契約の締結
平成 30 年 4 月 1 日	熊本市民会館文化企画事業の受託開始
平成 30 年 6 月 27 日	熊本県立劇場文化事業評価委員会の設置（文化事業委員会の廃止）
平成 30 年 10 月 17 日	熊本県立劇場条例一部改正
平成 31 年 3 月 31 日	第 3 期指定管理者業務終了
平成 31 年 4 月 1 日	第 4 期指定管理者業務開始

(4) 施設の概要

施設	客席数	広さ	主な設備
コンサートホール	1,810 席 (うち車椅子席 8 席)	間口 24.0m 奥行 14.0m	オーケストラ雑壇迫り 3 段 ピアノ 4 台、チェンバロ 1 台
演劇ホール	1,172 席 (うち車椅子席 11 席)	間口 18.0m 奥行 20.5m	大迫り、本迫り、オーケストラピット、 仮設本花道、ピアノ 1 台
大会議室	380 人	間口 7.2m 奥行 3.6m	スクリーン、机 54 台、 椅子 382 脚、ピアノ 1 台
和室	—	—	畳 18 畳、板間 18 畳、所作台 12 枚 等
音楽リハーサル室	—	308 m ²	ピアノ 2 台 等
演劇リハーサル室	—	253 m ²	ピアノ 1 台、所作台 12 枚 等
練習室（第 1～3）	—	215 m ² 、162 m ² 、 156 m ²	各室にピアノ 等

2 事業の実施状況

当財団は、活力ある郷土の実現を目指し、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術活動を中心とした芸術文化および地域文化振興のための事業ならびに優れた舞台芸術を広く提供する事業を行い、県民の福祉および文化の向上に寄与するとともに、県内文化ホールの中核的役割を果たしてきたところです。

平成30年度の施設運営面では、施設の老朽化に伴い、熊本県が策定している計画改修工事の一環として、演劇ホールの舞台吊物機構等改修工事が上期に、演劇およびコンサートホールの舞台照明設備改修工事が下期に実施され、両ホールの利用提供ができない期間がありましたが、施設の利用率は目標を上回りました。

県立劇場の指定管理業務については、熊本地震により2年間延長された第3期指定管理期間の最終年度となり、引き続き次期指定管理者として受託するための業務分析や検討作業を行うとともに、改正された熊本県立劇場条例の趣旨に沿った事業計画の策定を進めた結果、平成31年度から5年間の指定管理者に指定されました。

文化事業については、県・市連携事業として熊本市民会館の文化事業の受託を開始し、同館の指定管理者と円滑な連携のもとに事業を展開しました。

また、より質の高い事業への効果的な展開を図るために、文化事業の検証、事後評価を行う文化事業評価委員会を設置しました。

このほか、県と連携して「熊本文化プログラム」の実施やこころの復興支援事業「アートキャラバンくまもと」など、幅広い活動を展開してきたところです。

(1) 管理運営事業

① 概況

管理運営にあたっては、業務の効率的な執行と、利用者が安全・清潔・快適で、親しまれ満足できる施設となれるよう留意しながら、管理運営業務を行いました。

・施設設備の維持管理

県立劇場の計画改修工事については、利用者の安全と安心の観点から、現場の状況に立ち会うなど県と連携して取り組んできました。

平成30年度上期においては演劇ホール舞台吊物機構等改修工事のため約4ヶ月半(4月1日～8月16日)、下期においては演劇およびコンサートホールの舞台照明設備改修工事のため、両ホール約1ヶ月半(2月4日～3月13日)貸出停止しました。

また、大阪府北部地震を契機に熊本県で実施された公共施設のブロック塀の危険度調査において、当劇場の外周ブロック塀が「危険」と判断されたことから、鋼製フェンスへの切り替え工事が行われました。

そのほか、施設の維持管理については、安全・清潔・快適な利用を提供できるよう職員が日常的に保守管理し予防保全を行い、館内での各種公演・催事等が大きな支障なく円滑に実施されました。

・危機管理の対応

県立劇場は、ひとつの空間に不特定多数の人が集まることから、災害発生時には多大な被害が発生することが予想されるため、委託業者も含めた職員全員で地震(1回)・消防(2回)・テロ対策(1回)訓練を実施し、危機管理に関する知識の習得と意識の向上、実施訓練に努めました。

また、日ごろから公演ごとの危機管理担当者の配置や職員等緊急連絡表の作成、防火対策委員会の編成、自衛消防隊組織の編成など緊急時の対応に留意するとともに、定期的な点検や訓練を実施しました。

・満車時の対応

利用者が、安全でスムーズに駐車場を利用できるよう、複数公演が重なる場合は、開演時間を調整することにより、満車の回避や出庫する際の渋滞緩和に努めました。

催事利用車両による満車が想定される場合は、混雑回避のため、来館者への周知はもちろんのこと、主催関係車両の利用制限、近隣駐車場への案内や誘導員の配置を行い混雑解消に努めました。

平成30年度は、有料駐車場満車時の職員による誘導整理は64日間のべ76回(平成29年度は128日間のべ169回)となりました。

また、入出庫時の混雑解消のための正門付近の入出庫整理も同様に22回実施して混雑回避に努めました(平成29年度は55回)。

特に、ゆめタウン大江とは満車に伴う周辺道路混雑について情報共有を行い、混雑が予想される場合は、ホールの本番時間に合わせて入出庫整理を行うなど協力体制を構築しています。

② 施設の利用状況

各施設の利用申請の受付および施設使用料の収納事務に加えて、利用者が安全で快適に施設を利用できるよう施設の維持管理および運営に努めました。

平成30年度の利用状況は下表のとおりです。

(施設利用率・入場者数の見込と実績)

項目	見込	実績	差異
コンサートホール利用率	73.0%	76.2%	3.2ポイント
演劇ホール利用率	81.0%	84.4%	3.4ポイント
入場者数	339,000人	385,302人	46,302人

なお、平成30年度は計画改修工事が行われたため、利用可能日数が減少しましたが、過去の利用状況から定期的に利用のある団体への利用案内等を行うとともに、ホール以外の大会議室と練習室等については工事音等が発生することを了承していただくことを条件として貸出しを行いました。

平成30年度 施設の利用状況

1 施設別利用状況及び許可状況

(単位：日)

施設名		平成30年度	前年度同期	前年度同期比
		開館日数	335	335
コンサートホール	利用可能日数	269	254	15 (105.9%)
	利用日数	205	181	24 (113.3%)
	利用率 (%)	76.2	71.3	4.9ポイント (106.9%)
	入場者数 (人)	205,548	195,304	10,244 (105.2%)
演劇ホール	利用可能日数	147	242	▲ 95 (60.7%)
	利用日数	124	185	▲ 61 (67.0%)
	利用率 (%)	84.4	76.4	8.0ポイント (110.5%)
	入場者数 (人)	77,277	125,888	▲ 48,611 (61.4%)
大会議室	利用可能日数	310	325	▲ 15 (95.4%)
	利用日数	208	90	118 (231.1%)
	利用率 (%)	67.1	27.7	39.4ポイント (242.2%)
	入場者数 (人)	36,925	11,670	25,255 (316.4%)
和室	利用可能日数	320	329	▲ 9 (97.3%)
	利用日数	111	71	40 (156.3%)
	利用率 (%)	34.7	21.6	13.1ポイント (160.6%)
	入場者数 (人)	2,988	946	2,042 (315.9%)
音楽リハーサル室	利用可能日数	306	327	▲ 21 (93.6%)
	利用日数	230	228	2 (100.9%)
	利用率 (%)	75.2	69.7	5.5ポイント (107.9%)
	入場者数 (人)	15,462	7,555	7,907 (204.7%)
演劇リハーサル室	利用可能日数	308	329	▲ 21 (93.6%)
	利用日数	186	173	13 (107.5%)
	利用率 (%)	60.4	52.6	7.8ポイント (114.8%)
	入場者数 (人)	12,540	4,319	8,221 (290.3%)
第1練習室	利用可能日数	308	328	▲ 20 (93.9%)
	利用日数	159	144	15 (110.4%)
	利用率 (%)	51.6	43.9	7.7ポイント (117.5%)
	入場者数 (人)	10,492	3,341	7,151 (314.0%)
第2練習室	利用可能日数	311	330	▲ 19 (94.2%)
	利用日数	195	158	37 (123.4%)
	利用率 (%)	62.7	47.9	14.8ポイント (130.9%)
	入場者数 (人)	9,612	3,563	6,049 (269.8%)
第3練習室	利用可能日数	311	330	▲ 19 (94.2%)
	利用日数	247	203	44 (121.7%)
	利用率 (%)	79.4	61.5	17.9ポイント (129.1%)
	入場者数 (人)	11,694	4,528	7,166 (258.3%)
他の入場者数	入場者数 (人)	2,764	773	1,991 (357.6%)
入場者数合計 (人)		385,302	357,887	27,415 (107.7%)
使用許可件数 (団体数)		956	724	232 (132.0%)

* 利用率は小数点以下2桁を四捨五入

平成 30 年度のホール・大会議室の施設利用状況は、次のとおりです。

【コンサートホール】

利用可能日数 269 日に対して利用実績 205 日、入場者数約 20 万 5 千人、利用率 76.2% で、平成 29 年度と比較して利用日数は 24 日増、利用率は 4.9 ポイントの増となりました。

利用形態別では、音楽会・歌謡ショー133 日（対平成 29 年度比 10 日増）、大会・集会・式典が 15 日（同 3 日増）、研修・講演・発表会が 43 日（同 2 日増）となりました。

区分帯別利用では、午前 182 日（対平成 29 年度比 23 日増）、午後 191 日（同 25 日増）、夜間 123 日（同 17 日増）となりました。

【演劇ホール】

利用可能日数 147 日に対して利用実績 124 日、入場者数約 7 万 7 千人、利用率 84.4% で、平成 29 年度と比較して利用日数は 61 日減、利用率は 7.9 ポイント増となりました。

利用形態別では、演劇 23 日（対平成 29 年度比 5 日減）、邦楽・邦舞が 11 日（同 1 日減）、洋舞が 16 日（同 21 日減）、古典芸能が 10 日（同 6 日減）、大会・集会・式典が 8 日（同 4 日減）、研修・講演・発表会が 29 日（同 1 日増）、歌謡・音楽会が 21 日（同 22 日減）、映写会その他が合せて 6 日（同 3 日減）となりました。

区分帯別利用では、午前 113 日（対平成 29 年度比 53 日減）、午後 116 日（同 57 日減）、夜間 82 日（同 54 日減）となりました。

平成 30 年度は改修工事を施工するにあたり、工事日を確保する必要があったことから、利用可能日数および利用日数が減少しました。

【大会議室】

利用可能日数 310 日に対して利用実績 208 日、入場者数は約 3 万 7 千人、利用率 67.1% で、平成 29 年度と比較して利用日数は 118 日増、利用率は 39.4 ポイント増となりました。

利用形態別では、大会・集会・式典が 18 日（対平成 29 年度比 7 日増）、研修・講演・発表会が 137 日（同 104 日増）、展示会が 4 日（同 4 日増）、歌謡・音楽会が 39 日（同 4 日増）、その他が 10 日（同 1 日減）となりました。

区分帯別では、午前 116 日（対平成 29 年度比 63 日増）、午後 189 日（同 119 日増）、夜間 67 日（同 13 日増）となりました。

2 ホール別・形態別利用状況

(単位：日)

施設名	形態別	平成30年度	前年度同期	前年度同期比
コンサートホール	利用可能日数	269	254	15 (105.9%)
	音楽会	133	123	10 (108.1%)
	歌謡ショー	0	0	0 (-)
	大会・集会・式典	15	12	3 (125.0%)
	研修・講演・発表会	43	41	2 (104.9%)
	その他	14	5	9 (280.0%)
	利用日数計	205	181	24 (113.3%)
	利用率 (%)	76.2	71.3	4.9ポイント (106.9%)
演劇ホール	利用可能日数	147	242	▲ 95 (60.7%)
	演劇	23	28	▲ 5 (82.1%)
	邦舞・邦楽	11	12	▲ 1 (91.7%)
	洋舞	16	37	▲ 21 (43.2%)
	古典芸能等	10	16	▲ 6 (62.5%)
	大会・集会・式典	8	12	▲ 4 (66.7%)
	研修・講演・発表会	29	28	1 (103.6%)
	歌謡・音楽会	21	43	▲ 22 (48.8%)
	映写会	1	0	1 (-)
	その他	5	9	▲ 4 (55.6%)
	利用日数計	124	185	▲ 61 (67.0%)
	利用率 (%)	84.4	76.4	7.9ポイント (110.3%)
大会議室	利用可能日数	310	325	▲ 15 (95.4%)
	大会・集会・式典	18	11	7 (163.6%)
	研修・講演・発表会	137	33	104 (415.2%)
	映写会	0	0	0 (-)
	展示会	4	0	4 (-)
	歌謡・音楽会	39	35	4 (111.4%)
	その他	10	11	▲ 1 (90.9%)
	利用日数計	208	90	118 (231.1%)
利用率 (%)	67.1	27.7	39.4ポイント (242.3%)	

3 区分帯別利用状況

(単位：回)

施設名		平成30年度	前年度同期	前年度同期比
コンサートホール	午前	182	159	23 114.5%
	午後	191	166	25 115.1%
	夜間	123	106	17 116.0%
演劇ホール	午前	113	166	▲ 53 68.1%
	午後	116	173	▲ 57 67.1%
	夜間	82	136	▲ 54 60.3%
大会議室	午前	116	53	63 218.9%
	午後	189	70	119 270.0%
	夜間	67	54	13 124.1%
計	午前	411	378	33 108.7%
	午後	496	409	87 121.3%
	夜間	272	296	▲ 24 91.9%
	合計	1,179	1,083	96 108.9%

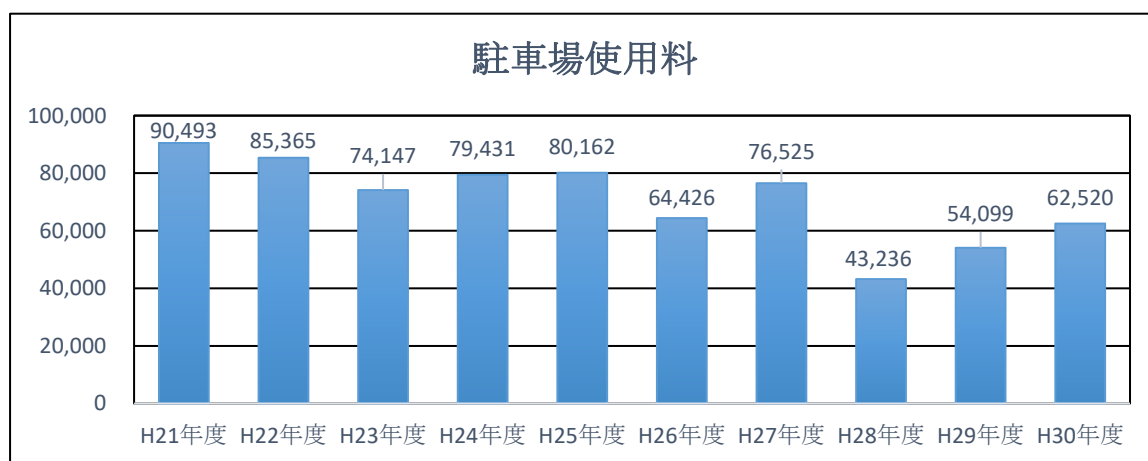
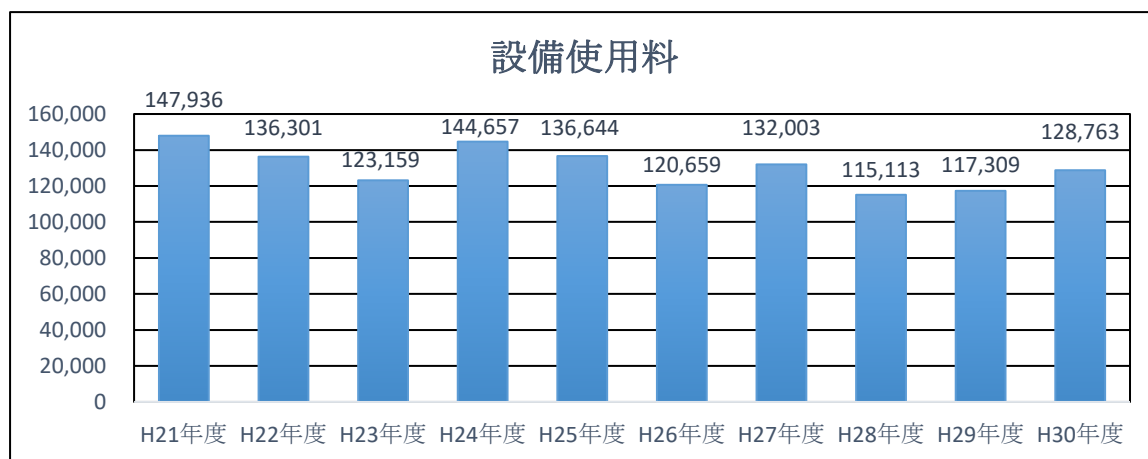
③ 使用料収納の実績

平成30年度の施設使用料(設備使用料と駐車場使用料)収入は191,284,350円となり、県予算から約1,265万円上回る結果となりました。これは、改修工事による貸出停止を見込み、県予算が例年の8割程度に減額されていたことによるものです。

《使用料収納の状況》

項目		県予算	実績	差異
使用料 収納額	設備使用料	122,495,000円	<u>128,763,950円</u>	6,268,950円
	駐車場使用料	56,137,000円	<u>62,520,400円</u>	6,383,400円

(参考) 施設使用料収納額の年度別比較



(2) 文化事業

① 文化事業の入場者・参加者数

文化事業の入場者・参加者は、目標数値の 41,400 人に対し 48,047 人 (116%) となりました。これは「アートキャラバンくまもと」での観客数が予想を上回ったことなどによるものです。

② 入場者アンケート

入場者アンケートの「公演内容」については、「大変満足」「満足」の回答（公演平均値）が 97%を占め、高い満足度を得ることができました。

③ 集客

<ul style="list-style-type: none"> ・ トーンキュンストラー管弦楽団 (1,810 席) ・ 現代能楽集「竹取」(見切れ席除き設定 635 席) ・ 不思議の国のアリス (150 席×3 公演) 	《 完 売 》
---	---------

3 公演でチケットが完売。また、鶴屋百貨店との共同企画「クリスチャン・ツイメルマンピアノリサイタル」公演もほぼ完売 (95%) で、観客から高い評価を得ました。

④ 多様な財源の確保

助成金等	金額 (千円)	事業名 (公演名)
文化庁 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業／公演事業)	14,685	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 60 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ・ トーンキュンストラー管弦楽団 ・ 不思議の国のアリス ・ KUMAMOTO JAZZ 2018
文化庁 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業／人材養成事業)	687	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県劇ゼミ ・ 東京藝大早期教育プロジェクト
文化庁 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業／普及啓発事業)	3,912	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行くぜ！劇場探検隊 ・ 社会包摂事業ワークショップ「老いと演劇」 ・ 吉永小百合×村治佳織×館長 トーク&コンサート ・ ネットワーク事業 ・ アウトリーチ事業 ・ トークセッション「熊本の文化力」
文化庁 (共同制作支援事業) 三菱 UFJ 信託芸術文化財団	11,414 400	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」
文化庁 (ネットワーク強化事業) (一財) 地域創造	1,546 2,701	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代能楽集「竹取」
文化庁受託事業	2,839	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術によるこどもの育成事業 ーコミュニケーション能力向上事業ー
合 計	38,184	

⑤ 公共団体や民間企業等との連携強化

連携先	事業名（公演名）
熊本保健科学大学	・社会包摂事業ワークショップ「老いと演劇」
東京藝術大学	・東京芸術大学音楽学部早期教育プロジェクト
熊日、FOR KUMAMOTO PROJECT、熊本市	・くまモン&キネコ映画祭
サントリーホールディングス、九州交響楽団	・サントリーみんなのまちのコンサート
(一財)山鹿市地域振興公社	・日露交歓コンサート2018
社会福祉法人ふれあい福祉協会	・ハンセン病対策促進事業 県庁ロビーコンサート
鶴屋百貨店	・クリスチャン・ツイメルマン ピアノリサイタル

I 芸術文化の創造拠点として取り組む事業

1) 創り育む

熊本県立劇場が自ら質の高い舞台を制作するとともに、本県文化創造の活動拠点として県民や文化団体の活動を育成・支援するための事業を実施しました。

モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」

東京芸術劇場およびオーバード・ホール（富山市）と共同で、新演出オペラの制作と上演を実施。総監督・指揮はオペラ経験が豊富な井上道義。演出の森山開次は初のオペラ演出で、音楽とダンスを融合させたこれまでにないフレッシュな舞台を制作しました。

今後の展望・・・オペラの制作・上演に取り組んだ本事業は、地方の劇場としては大きな予算規模となりましたが、作品のクオリティが高く、観客や地元出演者から高い満足度を得ることができました。予算規模の大きい公演については、今後も助成金等を活用し資金を調達するとともに、全国の公立文化ホールと連携し舞台制作に取り組むことで制作能力の向上に努めていきます。

県劇ゼミ

公立文化ホールにおける障がい者対応に関する研修「シアターアクセシビリティ」や、劇場フロントスタッフの業務を体系的に学ぶ「フロントスタッフ講座」、舞台芸術公演を行ううえで必要とされる著作権について学ぶ「著作権講座」の3つの講座を実施しました。講座ごとにターゲットを明確にしたうえで講師を選定。具体的な事例を用いたり、実技の時間を多く取ったりしたため、受講生の高い満足度を得ることができた講座でした。

今後の展望・・・これまで県下全域において、舞台芸術活動を担う人材を養成することを目的とした「県劇ゼミ」を実施してきました。今後も継続して研修プログラムを策定するほか、次世代を担う青少年や、県内公立文化ホール職員等を対象にした研修会を実施していきます。

2) 広げる

本県の舞台芸術活動における中核的な拠点ホールとして、県内公立文化ホールを支援するための事業等を実施しました。

アートキャラバンくまもと

熊本地震後、被災者や子どもたちの心の復興をアートで支援することを目的に、継続事業として実施。劇場協力アーティストのトリオ・コロレによるミニコンサートのほか、サントリーホールディングスと九州交響楽団と協働で実施した「サントリーみんなのまちのコンサート」、熊本地震後立ち上げた益城子ども劇団「ましきっずプレイヤーズ」のワークショップ指導者への支援など、益城町、御船町、嘉島町ほか県内各地で計 70 回実施しました。

(内訳) <ジャンル別内訳> 音楽：16 回、演劇：51 回、その他 3 回
<形式別内訳> 鑑賞型：20 回、参加型：50 回

また、県と連携して下記事業に取り組みました。

日露交歓コンサート 2018

ロシアのチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院の教授たちによる本格的なコンサートを、(一財)山鹿市地域振興公社との共催により実施。山鹿市民交流センターに多くの地域住民が来場し、本格的なクラシック音楽を楽しみました。

文化プログラム推進事業

国際スポーツ大会や 2020 オリパラを見据え、文化芸術公演を実施することで文化面からの機運醸成を図ろうと実施。シネマ歌舞伎「スーパー歌舞伎Ⅱワンピース」の上演や、東京キャラバン in 秋田(東京都等主催)に山鹿灯籠踊り保存会を派遣して、秋田の伝統芸能と共演しました。また、beyond2020 ロゴマークの認知度向上のため、beyond2020 とくま蒙のロゴマークを制作。チラシやグッズを作成・配布し、周知に努めました。

3) 伝える

日本の伝統文化を継承し発展させる事業を実施しました。

現代能楽集「竹取」

世田谷パブリックシアターの芸術監督・野村萬斎が手掛ける「現代能楽集シリーズ」第 9 弾。実力派人気俳優の小林聡美と貫地谷しほりが出演しました。「竹取物語」のストーリー性やセリフを大胆にそぎ落とし、演劇、能、コンテンポラリーダンス、パントマイムの要素を調和させ、詩的世界へ昇華。芸術性の高い公演でした。

今後の展望・・・全国の公立文化ホールとのネットワークを生かして本公演に取り組みました。また、文化庁、地域創造から合計 400 万円を超える助成金を獲得しました。今回のように実験的かつ前衛的な創造舞台は評価が二極分化し、特に地方での上演は厳しいと思われるがちですが、創作を通して制作や舞台スタッフの能力向上につながることから、これからも取り組んでいきます。

II 芸術文化の普及拠点として取り組む事業

1) 楽しむ

コンサートホール・演劇ホールそれぞれの特性を活かした質の高い舞台芸術公演に取り組みました。

クリスチャン・ツィメルマン ピアノリサイタル

鶴屋百貨店との2回目の共同企画。現代最高のピアニストと評されるクリスチャン・ツィメルマンを初めて招聘しました。鶴屋友の会会員へのダイレクトメールの活用のほか、段階的な広報計画が功を奉し、ピアノリサイタルとしては多くの観客が来場しました。

今後の展望・・・鶴屋百貨店が持つ広報ツールと、県立劇場が持つ企画・制作力と互いの強みを活かし、共催事業として取り組みました。その結果、昨年度のオーケストラ公演に続き成功を収めることができ、「地元企業との共同で経費を圧縮するとともに、効果的な広報展開を行う」という当初の目標を達成することができました。今後も公共団体や地元企業等と共催事業で取り組む際の業務分担や運営体制については、早めに協議を行い実施することとします。

2) 出会う

県立劇場以外のさまざまな場所で、多くの県民が文化芸術と出会うための事業を実施しました。

演奏家派遣アウトリーチ事業

地域の学校や公立文化ホールに演奏家を派遣し、生の演奏を間近で聴いたり体験したりする機会を提供する事業です。30年度は、劇場登録アーティスト（山崎明、村田貴洋/ともにサクソフォン）によるアウトリーチを御船町、あさぎり町、益城町の3町で実施しました。

今後の展望・・・小学校での評価はとても高く、児童たちも毎回良い反応を示しており、アンケートからも児童・先生ともに事業の効果の高さを感じました。各開催地の担当者のノウハウの蓄積もみられ、成果を上げています。今後は他の地域への広がりも検討し、公立文化ホールに足を運ぶ機会の少ない子どもたちや地域住民への普及を図ります。

III 市民会館事業

平成30年度から熊本市民会館の指定管理者となる（一財）熊本社会教育振興事業団より、指定管理業務の一部（自主事業業務）を受託。同事業団と協力し事業を実施しました。

アラジンと魔法のランプ

市民会館事業として取り組んだ初の有料公演。「アラジンと魔法のランプ」をベースとするメジャーなストーリーに本格的なオーケストラ演奏や声楽が加わり、子どもはもちろん大人まで幅広い世代が楽しめました。

今後の展望・・・夏休み期間中の親子向け公演のニーズは高く、新たな観客を取り込むうえで高い効果が見込まれます。企画にあたっては、質の高い公演を提供しリピーター増を図ることはもちろん、交通アクセスの良い市街中心部に位置する市民会館の特性を活かした事業展開を進めます。

I 創造拠点事業

1) 《創り育む》

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
行くぜ！劇場探検隊2018					
8/23(木) 演劇ホール	行くぜ！ 劇場探検隊2018 (全2回)	劇場や舞台芸術に興味をもってもら うため、夏休み子ども向け企画として 開催。劇団きらの団員が扮する探検 隊チームの一員として舞台裏を探検 し、音響機材・照明機材の操作や迫に 乗るなど、舞台の仕事を体験した。	[参加費] 500	—	62
第60回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「邦楽」					
9/2(日) 演劇ホール	芸文祭オープ ニングステー ジ「邦楽」	芸術監督に尺八演奏家の藤原道山を迎 え、熊本の水と火をテーマにプロの演 奏家と地元の演奏家及び小中高生ら が競演した。コンサートの最後には、本 公演委嘱作品の「大地へ」を世界初 演。邦楽と洋楽によるコラボレーシ ョンを披露した。	[指定] S/2,000 A/1,000	953	—
6/12(火) 大会議室	《関連企画》 教えて！ 邦楽って何？	藤原道山と葛西聖司をナビゲーターに 迎え実施。様々な和楽器の成り立ちや 奏法、音色についてのレクチャーのほ か、公演プログラムの聴きどころを判 りやすく解説した。	無料	—	179
8/15(水) ～8/17(金) 音楽リハーサル 室 ほか	《関連企画》 芸文祭オープ ニングステー ジ 夏合宿	藤原道山ほか、風雅竹韻(尺八アンサ ンプル)、LEO(箏)らゲストを招き、 地元の演奏家と3日間10コマの集中練習 を実施した。	—	—	200
モーツァルト歌劇「ドン・ジョヴァンニ」全幕					
H31/2/3(日) 演劇ホール	モーツァルト歌 劇「ドン・ジョ ヴァンニ」全幕	東京芸術劇場とオーバード・ホールと 共同で新演出オペラを制作・上演。出 演者オーディション等を経て秋から稽 古を重ね、千秋楽にあたる熊本公演 は、出演者・スタッフとも充実したコ ンディションで高い芸術性のパフォー マンスを披露した。	[指定] S/8,000 A/6,000	727	—
10/13(土) 熊本市 現代美術館	《関連企画》 小林沙羅 アウトリーチ	熊本市中心街の7商店会が主催する Street Art-plex Kumamotoのプログラ ムとして実施。美術館の展示作品に合 わせ、中国の歌曲や歌劇「ドン・ジョ ヴァンニ」のオペラアリアなどを演奏 した。	無料	100	—
10/14(日) 南阿蘇西小学 校、下野山田仮 設住宅	《関連企画》 小林沙羅 アウトリーチ	「この道」や「赤とんぼ」といった親 しみやすい歌謡曲から、ドイツ歌曲、 イタリアオペラのアリアまで、バラエ ティに富んだ演奏を披露。	無料	33	—
10/28(日)、 11/17(土) ～11/18(日) 音楽リハーサル 室 ほか	《関連企画》 コーラスリハー サル(全3回)	「ドン・ジョヴァンニ」副指揮の辻博 之による合唱指導。コーラスは譜面上 では出番が限られているが、歌がない ところでも演出に組み込まれており、 時間をかけ演技指導を行った。	—	—	57
東京藝術大学音楽学部「早期教育プロジェクト」2018 in 熊本					
H31/3/16(土) ～3/17(日) 大会議室 ほか	弦楽器部門 管・打楽器部門 特別公開レッ スン	東京藝術大学と県立劇場とが協働して 取り組む逸材発掘プロジェクト。東京 藝術大学の講師・教授陣が来熊し、直 接指導を受ける機会を提供した。弦楽 器部門は、1名あたり40分の公開個人 レッスンをを行った。管・打部門はフ ルート、オーボエら、全11コースで2日 間にわたるグループレッスンを行っ た。	無料	112	55
H31/3/17(日) コンサート ホール	熊本復興 特別演奏会	受講生と講師のほか、東京藝大ウイン ドオーケストラと玉名女子高等学校吹 奏楽部が出演。全国トップレベルの演 奏を披露した。	無料	1,009	—

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
県劇ゼミ/シアターアクセシビリティ、フロントスタッフ講座、目からウロコの著作権講座					
6/19(火) こども文化会館	シアターアクセシビリティ	障害者差別解消法に伴い、公立文化ホールや劇場の障がい者対応においてさらなる意識改革と環境改善が求められている。熊本県公立文化施設協議会自主文化事業研修会と連携して、公立文化ホール職員を対象に誰もが芸術・文化活動に参加できる環境づくりについて、専門家を招き研修した。	無料	—	36
H31/2/5(火) 熊本市市民会館	フロントスタッフ講座	フロントスタッフの役割について座学と現場での実践を行った。扉の開閉のタイミング、客席内への誘導、暗転中のペンライトの使い方など、鑑賞の妨げにならないような工夫を学んだ。	無料	—	32
H31/2/24(日) 大会議室	目からウロコの著作権講座	昨年度実施し好評を得た著作権講座の第2弾。今回も著作権に詳しい骨董通り法律事務所(東京都)の福井健策弁護士を招いて行った。	[受講料] 500	—	120
社会包摂事業ワークショップ「老いと演劇」					
5/20(日) 熊本保健科学 大学	「老いと演劇」 OiBokkeShiから 介護現場の コミュニケーションを学ぶ	老いとボケと死をテーマに、岡山県を拠点に活動する劇団「老いと演劇」OiBokkeShi(オイボッケシ)を招き、その活動の紹介と演劇作品「カメラマンの変態」の上映と「ポータブルトイレシアター」を上演。熊本保健科学大学地域包括連携医療教育研究センターと協働で実施した。	無料	162	—
オハイエくまもと協力事業					
11/11(日)、 H31/2/24(日) 第二大江学園	音楽ワーク ショップ	「とっておきの音楽祭」本番に向け音楽家の片岡祐介を招き、演奏指導を行った。	—	—	122
H31/3/18(日) 熊本市現代 美術館	第10回オハイエ くまもと 「とっておきの 音楽祭」	現代美術館での舞台進行全般に関わった。音響機材や譜面台など、コンサートに必要な機材や備品の貸与、進行表作成ならびに進行管理など、劇場が持つノウハウと技術を活かした協力を行った。	無料	800	—
文部科学省「文化芸術によるこどもの育成事業」受託事業					
9/10(月) ~10/17(水)	菊池市泗水東小 ワークショップ (全3回)	1年生2クラス合同のワークショップを実施した。	—	—	103
10/12(金) ~11/19(月)	山鹿市立大道小 ワークショップ (全3回)	5年生を対象としたワークショップを実施した。	—	—	92
10/26(金) ~12/4(火)	天草市立戸崎小 ワークショップ (全3回)	1年生・3年生合同のワークショップを行った。	—	—	62
11/20(火) ~11/30(金)	八代市立東陽小 ワークショップ (全3回)	5年生を対象としたワークショップを実施した。	—	—	56
12/3(月) ~H31/1/25(金)	宇城市立青梅小 ワークショップ (全9回)	低・中・高学年に分け、各3回ずつワークショップを実施した。	—	—	244
H31/1/11(金) ~2/6(水)	玉名市立高道小 ワークショップ (全3回)	4年生を対象としたワークショップを実施した。	—	—	92
文化活動支援事業					
通年	文化活動 支援事業	県内で活動する文化団体に、県立劇場での会場費を助成した。 (全6催事：熊本ウインドオーケストラ定期演奏会、熊本交響楽団定期演奏会、ザ・シンフォニエッタ定期演奏会、熊本マンドリン協会定期演奏会、第31回箏曲の祭典、琉球國祭り太鼓15周年記念公演)	主催者 により 異なる	5,230	—

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
民間共催事業					
4/16(月) コンサート ホール	第2回熊本地震復興 祈念コンサート 主催：くまもと 音楽復興支援100 人委員会ほか	熊本の未来を担う子どもと若きアー ティストによる演奏と、プロの演奏家 によるベートーヴェン交響曲第9番との 2部構成。	[指定] S/6,000 A/5,000 B/3,000 C/2,000	1,800	—
11/4(日) コンサート ホール	第57回熊本県 新人演奏会 主催：熊本県文 化協会	オーディションにより選ばれた音楽家 を志す新人演奏家が出演する演奏会。 今年ピアノ部門3名、声楽部門3名、 管弦打楽器部門6名、合計12名が出演し た。	[自由] 一般 1,000	518	—
12/23(日) コンサート ホール	ベートーヴェン 「第九」 主催：熊本県民 第九の会、熊本 県文化協会	指揮者に群馬交響楽団音楽監督の大友 直人、ソリストは熊本県出身の佐々木 典子、大友一彰をはじめ、大林智子、 牧野正人を迎え開催した。	[指定] 4,000 [自由] 3,000 学生 1,500	1,317	—
H31/2/9(土) ～2/10(日) 演劇 リハーサル室	世界との出会い in熊本 主催：スタジオ アーキタンツ	ロサンゼルス・バレエ団などでプリン シパルを務め、「キャッツ」などの ミュージカルでもダンサー・振付アシ スタントとして活躍するレズリー・ワ イズナーによるバレエワークショップ を開催した。	[受講料] 2日間 8,000	—	107
創造拠点事業 1)《創り育む》計				12,761	1,619

2)《広げる》

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
アートキャラバンくまもと					
通年	アートキャラバ ンくまもと	熊本地震後、平成28年度から実施する 継続事業。トリオ・コロレによるミ ニコンサートや折鶴で祈る熊本の復興 プロジェクトのほか、県庁ロビーコン サートなど、県内各地で実施した。	無料	339	30
4/6(金) ウイング まつばせ	吉永小百合×村 治佳織×姜尚中 トーク&コン サート	1部は俳優の吉永小百合による詩の朗 読、クラシックギター奏者の村治佳織 によるミニコンサート、2部は姜館長を 含む3名でのトークショーを行った。吉 永氏は和合亮一作詞の「熊本城」など 熊本地震を描いた詩を含む7編を朗読し た。	無料	694	—
4/15(日) コンサート ホール	くまモン& キネコ映画祭 (全2回)	熊本日日新聞社、(一社)FOR KUMAMOTO PROJECTと熊本市の4者で経費・業務を 分担して取り組んだ。1日2回の公演 で、合計11本の映画を上映。一部は女 優の戸田恵子や松本梨香をゲストに招 きライブ・シネマで上映した。	無料	2,700	—
通年	ましきつず向け ワークショップ	熊本地震で被災した子どもたちの心の 復興を目指し、毎月4回のワークショッ プを実施した。	—	—	920
H31/3/9(土) ～3/10(日) きやま座	ましきつず第2回 公演「バルーン ストーリー」 (全3回)	1年間の集大成としての公演。子どもた ちは4つのグループに分かれ、1つの題 材「風船」を中心に、ミュージカル、 時代劇など異なるジャンルの演劇の創 作・発表を行った。	無料	230	—
通年	サントリー みんなのまちの コンサート	サントリーホールディングスと九州交 響楽団と協働で、御船・嘉島・益城の3 町において復興支援のミニコンサート を実施した(全8公演)。	無料	2,661	—
日露交歓コンサート2018					
9/23(日) 山鹿市民交流 センター	日露交歓コン サート	モスクワ音楽院(ロシア)の卒業生、 研修生ら7名による本格的なクラシック コンサートを実施した。	無料	335	—
9/22(土) 八千代座	《関連企画》 地域交流 プログラム	地元の子どもたちによる歓迎公演。合 唱や楽器の演奏に加え、狂言や歌舞伎 で演奏家たちをもてなした。	—	200	—

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
文化プログラム推進事業					
12/8(土) ～12/9(日) 男鹿市文化会館、 秋田市民交流プラ ザアルヴェ	東京キャラバン in秋田 ワークショップ	東京オリパラ公認オリンピックアード「東京キャラバンin秋田」(東京都等主催)に山鹿灯笼踊り保存会を派遣。熊本の伝統芸能を国内外へ発信した。野田秀樹演出のもと、なまはげ保存会等と共演。新たなパフォーマンスを創作した。	—	1,150	120
12/9(日) ホテル日航熊本	女子ハンドボール アジア選手権フェ アウェルパーティ 「牛深ハイヤ」	女子ハンドボールアジア選手権終了後のパーティー会場で、牛深ハイヤ保存会による牛深ハイヤを披露。日本、韓国、中国、カザフスタンの各選手と関係者など多くの人が熊本の民俗芸能を鑑賞した。	—	200	—
12/10(月) Denkikan	シネマ歌舞伎 「スーパー歌舞伎 Ⅱワンピース」 (全2回)	アニメ・歌舞伎・映画・音楽の融合を切り口に、シネマ歌舞伎を上映。上映前には、音楽(作曲)を担当した尺八演奏家の藤原道山によるミニライブも行った。	[自由] 一般 /2,100 学生 /1,500	226	—
H31 2/13(水) 県庁ロビー	県庁ロビー コンサート 「菊池恵楓園 心の朗読会」	国立療養所菊池恵楓園絵画パネル展オープニングイベントを県立劇場がコーディネートし、菊池恵楓園入所者らが書いた手記や詩、短歌の朗読会を実施した。	無料	70	—
H31 2/16(土) ～2/17(日) 秋田ふるさと 村、ドーム劇場	東京キャラバン in秋田	秋田の伝統芸能(男鹿なまはげ、秋田市竿燈会、二代目浅野梅若)に熊本の山鹿灯笼保存会が加わり公演を行った。	—	1,551	68
H31 2～3月	beyond2020 普及事業	beyond2020プログラム熊本県版ロゴマークの周知と活用推進のため、印刷物やグッズの作成を行った。 (クリアファイル、ピンバッジほか)	—	—	—
ネットワーク事業					
5/31(木) 菊池市泗水 ホール	林家たい平 独演会	人気テレビ番組「笑点」でお馴染みの落語家・林家たい平の独演会。「猫の災難」「井戸の茶碗」「お見立て」を披露。噺の中に熊本の地名や特産品が多く盛り込まれ、そのたびに会場は大きく盛り上がった。	[指定] 一般 /2,000 学生 /1,000	422	—
10/9(火) 水俣市文化会館			[指定] 1,000	740	—
6/3(日) 牛深総合 センター	三遊亭好楽 落語会	人気テレビ番組「笑点」に出演中の三遊亭好楽による落語会。熊本県益城町出身の好吉は「九日十日」「紙入れ」、好楽は「藪入り」を披露した。	[指定] A/2,000 B/1,500 C/1,000 学生 /1,000	216	—
9/30(日) 美里町文化交 流センターひびき	狂言でござる	福岡を中心に活動する狂言師、野村万禄による狂言公演。定番の「柿山伏」や「附子」の他、狂言体験コーナーでは、観客全員が体を動かしたり狂言の発声を体験した。	[自由] 一般 /1,000 学生/200	110	—
10/14(日) 須恵文化ホール	熊本交響楽団 公演	指揮に小森康弘を迎え、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「ハンガリー舞曲」などクラシック曲のほか、映画音楽を演奏。指揮者体験コーナーでは中学生3名が指揮に挑戦した。	[自由] 一般 /1,000 学生/500	222	—
H31 1/5(土) 天草市民 センター	絵本のじかんだ よ!	NHK教育テレビ「みいつけた!」のオフロスキーでおなじみ、小林顕作の絵本の読み聞かせ。スクリーンに映し出された絵本の美しさや小林顕作の楽しい語り口に、乳幼児から高齢者まで楽しいひと時を過ごした。	[自由] 大人 /1,000 学生/500	482	—
H31 1/6(日) ながす未来館			[自由] 大人 /1,500 学生/500	306	—

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
公立文化ホール支援事業					
通年	公立文化ホール支援事業	熊本市子ども文化会館での研修会のほか、九州地域アートマネジメント研修会、九州類似ホール連絡会等の開催及び参加。	—	—	—
創造拠点事業 2)《広げる》計				12,854	1,138

3)《伝える》

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
県劇盆踊り					
8/14(火) コンサート ホールホワイエ	県劇盆踊り	民謡演奏家を招き、迫力の生演奏で牛深ハイヤ節、炭坑節、おてもやんほか、東京五輪の気運醸成のため「東京五輪音頭2020」を踊った。その他、益城町子ども劇団「ましきっずプレイヤーズ」が、新曲「ましきまちのうた」を初披露した。	無料	1,200	—
現代能楽集「竹取」					
11/2(金) 演劇ホール	現代能楽集「竹取」	世田谷パブリックシアター芸術監督の野村萬斎(狂言師)が古典芸能と現代演劇の融合を目指すシリーズ企画の第9弾。演出はパントマイムの小野寺修二。能楽や舞踏、打楽器奏者など様々なジャンルの出演者による新作舞台を上演した。	[指定] S/4,000 A/3,000	707	—
7/14(土) 演劇 リハーサル室	《関連企画》 小野寺修二の マイム体験教室	10歳から76歳と幅広い年齢層が参加。マイムの基本「身体を分解すること」を目標に自らの身体と向き合った。多様な人が関わり合いながら、言葉を使わない身体のコミュニケーションに集中した。	[参加費] 500	—	24
伝承芸能発信事業					
通年	伝承芸能発信事業	県内における伝統文化・伝承芸能活動の調査事業として、館長が現地へ出向き各地の現状と課題を取材。(荒尾・長洲地域、八代地域、菊池地域を訪問)	—	—	53
創造拠点新規企画事業					
通年	創造拠点新規企画事業	次年度以降の芸文祭オープニングステージや創造拠点事業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
創造拠点事業 3)《伝える》計				1,907	77

Ⅱ 普及拠点事業

1) 《楽しむ》

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
トーンキュンストラ管弦楽団					
5/13 (日) コンサート ホール	トーンキュン ストラ管弦楽団	オーストリアのウィーンを拠点に活動し110年の歴史を持つトーンキュンストラ管弦楽団による演奏会。2015年、音楽監督に就任した佐渡裕が指揮を務めた。佐渡の師匠であるレナード・バーンスタインの作品より2曲演奏。	[指定] SS/12,000 S/10,000 A/8,000 B/6,000	1,745	—
不思議の国のアリス					
9/21 (金) ～9/22 (土) 演劇ホール 舞台上	不思議の国のア リス (全3回)	ダンサー・振付家の森山開次が初めて演出を手がけたKAAT神奈川芸術劇場制作のキッズ・プログラム。舞台上舞台での公演であったため、子どもたちは近距離で観るダンサーの踊りを食い入るように見つめていた。	[自由] おとな /3,000 子ども /1,500	509	—
6/17 (日) 演劇 リハーサル室	《関連企画》 森山開次のダン スワークショップ	森山開次によるダンス・ワークショップを開催。小学1～3年生の子どもたちがウサギやトランプの動きを考え、表現した。ワークショップの最後には、森山開次がその子どもたちと踊った動きをまとめたダンスを披露した。	[参加費] 500	—	19
クリスチャン・ツィメルマン ピアノリサイタル					
H31 3/14 (木) コンサート ホール	クリスチャン・ ツィメルマン ピアノリサイタ ル	昨年に続き、鶴屋百貨店と2回目の共同企画による公演。世界屈指の実力を誇るピアニストであるクリスチャン・ツィメルマンのリサイタルを実施。ブラームス/ピアノ・ソナタ第2番、ショパン/4つのスケルツォなどを演奏。	[指定] SS/9,000 S/7,000 A/6,000 B/4,000	1,676	—
民間共催事業					
7/12 (木) コンサート ホール	NHK交響楽団	4年に一度のN響九州ツアーの一環。公演はロシアの巨匠・フェドセーエフの指揮によるオール・ロシア・プログラム。ムソルグスキー/交響詩「はげ山の一夜」、ショスタコーヴィチ/交響曲第5番などを演奏。	[指定] S/6,000 A/5,000 B/4,000 C/3,000	1,509	—
9/20 (木) コンサート ホール	アリス＝紗良・オ ット ピアノリ サイタル	国内外で活躍するアリス＝紗良・オットのソロリサイタル。平成28年度に続き2回目の実施。プログラムは「ナイトフォール」(昼と夜の狭間)がテーマで、ドビュッシー/ベルガマスク組曲やラヴェル/夜のガスパール等を情感豊かに聴かせた。	[指定] S/4,500 A/3,500 B/2,500	1,202	—
普及拠点事業 1) 《楽しむ》 計				6,641	19

2) 《出会う》

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
演奏家派遣アウトリーチ事業					
7/10 (火) ～7/13 (金) 御船町	御船町 アウトリーチ	県立劇場登録アーティストの村田貴洋(サクソフォン)、協力アーティストの亀子政孝(コントラバス)によるアウトリーチを御船町の6つの小学校で実施。	—	—	235
10/3 (水) ～10/29 (月) あさぎり町	あさぎり町 アウトリーチ	県立劇場登録アーティストの村田貴洋(サクソフォン)、山崎明(サクソフォン)によるアウトリーチをあさぎり町の5つの小学校で実施。	—	—	216
H31 2/14 (木) ～2/28 (木) 益城町	益城町 アウトリーチ	県立劇場登録アーティストの村田貴洋(サクソフォン)、山崎明(サクソフォン)によるアウトリーチを益城町の5つの小学校で実施。	—	—	427

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
びっころシート事業					
通年	びっころシート 事業	平成19年度から県内企業からの協賛を得て、児童養護施設の子どもたちおよび里親家族に公演招待制度を実施。「アラジンと魔法のランプ」「不思議の国のアリス」の2公演に、14施設と4家族の計202人を招待した。	—	各事業に 計上	—
普及拠点新規企画事業					
通年	普及拠点 新規企画事業	次年度以降の普及拠点事業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
普及拠点事業 2)《出会う》計				0	878

Ⅲ 市民会館事業

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
トークセッション「熊本の文化力」					
4/7 (土) 熊本市市民会館 大ホール	トークセッション 「熊本の文化力」	平成30年度から熊本県立劇場と熊本市市民会館が連携して熊本市市民会館の文化事業を実施。その連携強化を記念し姜尚中熊本県立劇場館長、大西一史熊本市長とのトークセッションを行った。	無料	670	—
アラジンと魔法のランプ					
8/18 (土) 熊本市市民会館 大ホール	アラジンと魔法のランプ	日生劇場が制作する親子向けの作品を上演。「アラジンと魔法のランプ」をベースにしたオリジナルストーリーを通し、大井剛史の指揮、九州交響楽団の演奏に歌やピアノも加わり、バラエティに富んだ内容だった。	[指定] S/3,000 A/2,000	1,075	—
KUMAMOTO JAZZ 2018					
12/15 (土) 熊本市市民会館 大ホール	KUMAMOTO JAZZ 2018	【公演中止】 出演者の山下洋輔が怪我をしたことで急遽中止が決定。チケットを購入したお客様には電話やTVCM等で周知を図り、本番日は会場で中止と払戻しの案内を行った。	[指定] SS/5,000 S/4,000 A/3,000 B/2,000	0	—
11/10 (土) 熊本市市民会館 大会議室	《関連企画》 ワークショップ& ミニコンサート	トロンボーン奏者の松本治によるワークショップ。演奏するうえで大切なポイントを学んだ。最後に受講生総勢94名で合奏を行った。	無料	50	94
劇団四季「魔法を捨てたマジョリン」					
H31 1/23 (水) ～1/25 (金) 熊本市市民会館 大ホール	劇団四季 「魔法を捨てた マジョリン」 (全5回)	劇団四季によるオリジナルミュージカルを上演。(一財)舞台芸術センターと劇団四季の社会貢献活動「こころの劇場」として熊本市内の小学6年生を招待し上演した。	無料	5,901	—
エリサと白鳥の王子たち					
H31 1/31 (木) 熊本市市民会館 大ホール	エリサと白鳥の 王子たち (全2回)	アンデルセン童話「野の白鳥」を原作とし、コンテンポラリーと人形劇を組み合わせて作り上げた、日生劇場オリジナル作品を上演した。	無料	2,334	—
芸術文化による子どもの育成事業					
H31 1/17 (木)	熊本市立大江小 ワークショップ	3年生を対象としたワークショップを実施。本事業は学校が文化庁に直接申請する事業であるため、県立劇場は視察と次年度以降の展望の聞き取りを行った。	—	—	29
市民会館新規企画事業					
通年	市民会館 新規企画事業	次年度以降の市民会館事業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
市民会館事業にかかる人件費				—	—
市民会館事業 計				10,030	123